

平成28年度

学校法人北照高等学校 学校評価書

学校法人 北照高等学校
理事長 東 廣 様

平成28年度学校関係者評価を、教員自己評価・校務分掌、学年の自己評価・生徒質問票による自己評価分析結果に基づき下記の通り取りまとめましたので報告いたします。

1. 学校関係者評価の実施について

- ①平成29年3月27日 学校法人北照高等学校理事・評議委員会の中で実施
 - ②平成29年4月29日 北照高等学校PTA総会の中で実施
- 内容 平成28年度3学期末までの教員自己評価・校務分掌、学年の自己評価・生徒質問票による自己評価分析結果及び自己評価を総務部長が説明。

2. 評価項目と評価内容

① 教育活動について

多くの保護者が学校と連携して教育活動を行うことができていると感じていることや、生徒が教員を信頼して学校に通うことができていることが窺える。校内の良好な人間関係が、学習意欲の向上や学校行事・課外活動における充実感につながり、最終的に卒業した3年生の進路実績として実を結んだと感じた。北照高校が「北照から社会へ」というスローガンを掲げ、キャリア教育を始めとする進路指導に力を入れて5年が経過し、一定の成果を挙げることができていると評価したい。

一方で、年度間で比較すると生徒・教職員共に下がっていることが気がかりである。学校の説明では、生徒の評価に関しては在校生の半分を占めるスポーツコースの生徒が、男子サッカー部顧問の急な変更や野球部の秋季大会辞退等の影響で、新しい環境に適應することに時間がかかったり、精神的な打撃から回復することに時間がかかったりしているとのことであった。現在は、学校の対応等により多くの生徒が前向きに活動に取り組むことができているようだが、本来このような事態にならないように適切な

対策や指導を行うべきである。また、職員の評価結果から先に挙げた取り組みに一定の成果が出た反面、恒常化による悪影響もあるのではないかと感じる。平成 29 年度は、事故等を未然に防ぐための方策に力を入れること、過去を基盤に取り組みを発展させることを期待したい。

② 生徒質問票の分析結果について

過去の分析で生徒の満足度に直結していたため、学校が力を入れている進路指導・生徒や保護者との関係において継続的に高い評価を得ている。このことから、教職員が生徒一人ひとりを大切に教育することができていると感じた。そのことは、生徒の自由記述において生徒が教員との関係や学校生活への前向きな印象を多く挙げていることから裏付けできる。

昨年度の評価結果を受けて、学食・進路指導室・図書館の改装を行ったが、生徒・保護者の満足度にはつながっていない。生徒の学習環境の整備も重要なことだと考えられるため、引き続き改修等を行っていくことを要望したい。また、進路や部活動において実績を挙げているにもかかわらず特に教職員の評価につながっていないのは、教員一人ひとりの教育力が学校全体の教育力に効率よく伝わっていないのではないかと感じた。その根拠は、教職員の人間関係の項目で数値が低下している点である。平成 29 年度は教職員の働く環境についても力を入れて欲しい。

③ 総 評

平成 28 年度の教育活動を精査した結果、おおむね良好である。ただし、例年と比較し評価が全体的に下がっているため予断は許されない状況だと感じた。変化する社会情勢やその時々在校生に合わせて常に質の高い教育を行うことができるよう、努力を続けて欲しい。

上記の通り報告いたします。

平成 29 年 5 月 8 日

北照高等学校保護者と教師の会会長

川口政康 